

## 次期学習指導要領について

## 改訂の基本方針

- (1) グローバル化の進展や人工知能(AI)の飛躍的な進化など、将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現。
- (2) 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現。
- (3) これまで改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点から学習指導要領を改善。

## 改訂の方向性

- (1) 「生きる力」を育むために必要な資質・能力の明確化。
  - ① 生きて働く「知識・技能」の習得
  - ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
  - ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養
- (2) 「アクティブ・ラーニング」による質の高い学びの実現。

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善。

「主体的な学び」 … 学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけていく学び。

「対話的な学び」 … 多様な人との対話や先人の考え方(書物等)で考えを広げる学び。

「深い学び」 … 各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする学び。
- (3) 「カリキュラム・マネジメント」による学校教育の改善・充実
  - ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列。
  - ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立。
  - ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に構成。

## 具体的な改善点

### (1) 特別の教科 道徳

- ① いじめの問題や国際理解への対応など、時代の要請に応じた内容項目の充実。(例えば、情報モラルなど)
- ② 現代的な課題(例えば、持続可能な発展)など物事を多面的・多角的に考えるための指導の充実。
- ③ 問題解決的な学習や体験的な学習の導入。
- ④ 個々の児童生徒の道徳性に係る成長を促すとともに、学校における指導の改善を図ることを目的とした評価の実施。

### (2) 外国語教育

- ① 小学校高学年では、現行の「聞くこと」「話すこと」の活動に加え、「読むこと」「書くこと」を加えた領域を扱い、教科型の外国語教育を実施。(年間 70 時間)
- ② 小学校中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を実施。(年間 35 時間)
- ③ 時数としては中学年・高学年においてそれぞれ年間 35 時間の増。
- ④ 15 分の短時間学習の設定や、60 分授業の設定、長期休業期間における学習活動、土曜日の活用や週あたりコマ数の増など、地域や学校の実情に応じて組合せながら柔軟な時間割編成が可能。

### (3) プログラミング教育

- ① 小学校段階から、プログラミング教育を実施。
- ② プログラミング教育とは、子供たちに、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考<sup>1</sup>」などを育むもの。
- ③ 総合的な学習の時間や理科、音楽などにおいて、プログラミング教育を導入。(中学校段階では、技術・家庭科技術分野におけるプログラミング教育のさらなる充実を図る。)

## 次期学習指導要領関連スケジュール

平成 28 年度 (2016 年度)	学習指導要領告示 (年度内)	
平成 29 年度 (2017 年度)		小学校道徳教科書採択
平成 30 年度 (2018 年度)	小学校 特別の教科道徳 全面実施	中学校道徳教科書採択
平成 31 年度 (2019 年度)	中学校 特別の教科道徳 全面実施	小学校教科書採択予定
平成 32 年度 (2020 年度)	小学校学習指導要領全面実施予定	中学校教科書採択予定
平成 33 年度 (2021 年度)	中学校学習指導要領全面実施予定	

<sup>1</sup>自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力